夕刊
磐城新聞
二月二十七日發行
（日曜祭日翌日休刊）

輝かしき童心 八
『オーバル・ホワイトレイの日記』その他
津川公治

靈魂はをりませんでした。けれども春がくれば咲き匂ふ花のなかにその靈魂はきつと見つかると信じてゐます――おそらくは鹿の子百合の咲き誇るなかゝ。さもなければ樅の梢の頂に。今日もブレイナ・ホレイシアスと一緒、森の中をぬけて行つたとき、その靈魂が漂つてゐるのを私は身近に感じました」

私は寶玉のやうに涙に光つた童心をそこに見出さずにはゐられない。この一節だけでも、何といふすばらしい詩であらうか。幼くして父母に別れ、心なき材木業者の妻の手にわたされ、朝となく夜となく世智辛くこき使はれたことだけでもすでに人生の不幸でなければならない。しかも彼女の小さな心はちつとも悲しく寂くもなかつた。それは一切の自然そのものが一人の大きな慈母であつたからである。養母に叱られて家を追ひだされると、彼女は、いはゆる侶友を引き具して森へ行き、松風の音樂を伴奏に踊りををどつて、木々や風と話しをして樂しんだのもその一例であらう。限りなき明朗な童心には悲しみの宿る暇がなかつた。彼女の喜びもさびしさも、自然がすべて慰めとなつてこれを頒つてくれたのである。自然が童心を愛撫する光景は、いかに美しいものであらう。次ぎの一節に、私達はその姿を見ることができるのである

『今宵はこれ以上かきたくありません。私は本箱の上に座つたまゝでこれ（日記）をかいてゐるのです。私が乳をもつて歸りますと、母さんは怒つて私のお臀をぴちやぴちやと叩いてから、こゝへ押し込んでしまつたのです。私は寢室の窓からぬけ出して星と話がしたい。彼等はいつも懐しげに微笑んでゐます。生きて行くのになんといふ愉快な世界なのでせう』

この最後の一句こそ、あらゆる悲慘な境遇にもさまたげられず、この日記全篇を通じて鳴りひゞいてゐるホワイトレイの自然と人生の讃歌なのである（完）

磐城歌壇
新妻久満男選

茂木紅梅

○夕ぐれに一人淋しく歸りくれば我家に一つ灯つけあり
○白白と野ばらちごきてにほふなる逝く春に向ひて口笛を吹く
○春の宵手紙書きつゝコバルトのインキのかほり眞よろしき
◎人來なば猿も遊ばす公園の草葉の上に春の雨降る

小評　第一首『夕ぐれに』は說明に過ぎ、感傷にとられてゐる憾がある。即ち一、二不句可。第二首の下の句をよむと折角の上の句を殺つて了つてゐるのは惜しい。第三首『春の宵』は美しい秋かな感じでよまれる。最後の『人來(な)ば』は一寸つんとすました形の歌である。『人來(れ)ば』であらう。よい歌である。丁度九條武子さんの南支那旅行の折詠まれた歌を見てゐる樣な感がする。

萬葉の歌と人 九
ケイ・ワイ生

反歌
世の中を愛しとやさしと想へども飛び立ちかねつ鳥にしあらねば

大伴旅人　矢張り第三期を代表する一人であるが、憶良とは反對に老莊思想の影響をうけた歌人である。したがつて憶良と等しく人生へ向つた歌人ではあるが、憶良とは正反對に現實を享樂せんとした歌人である。

彼は名家大伴家に生れ祖父は右大臣であり、父は大納言であつた。彼も又從二位大納言にまで累進した。地位は高きを得、性格は明朗快活であつたらしく、その歌は安易に過ぎると思はれる迄明快である。太宰師になつて筑紫へ赴任してから妻に別れたが、その時の歌にも悲哀を明るい色調で現して居るのである。從つて彼が詠じた讃酒歌も享樂の底にある悲痛な心情はなくして、老莊の思想を知識的に唱つたに過ぎないやうに見える

太宰師大伴卿讃酒歌（卷三）

驗無きものを思はずは一杯の濁れる酒を飲むべかるらし
酒の名を聖人は負ほせし古の大聖人の言の宜しさ

大伴家持　大伴家持彼は旅人の子で第四期を代表する歌人である。家持はその歌才に於ては特に稱すべきものはないが、萬葉集の成立の上に極めて深い關係を有する上に、その生涯が他の歌人に比較して詳知し得るのでありその歌も萬葉歌人の中では最も多く、又これを年代的にまとめて見ることが出來る上に、その歌の取材がひろく、思想に於ても雜多であつて、その間に成長してゆく道を認めることが出來る。文學史を透して成長してゆく文化、發展してゆく人間性を跡づけることが可能であるならば、こゝに一人の歌人の心境が如何に展開して行くかをその歌人の生涯、及び歌の年代的考察によつて跡づけることは一つの文學史を取扱ふよりも具體的に扱ふことが出來るであらう。かく見る時、家持は萬葉歌人の中で最も適當であると思はれる

小曲……曉の想
花散里

むねの痛みに堪へかねて
曉の窓そと繰れば
西山ちかく三日月の
佛が眉に似たりける
想ひは悲しむらさきの
汲めどもつきぬ山かげの
泉の如くさみどりの
ゆけども果てぬ空のごと
白き吐息はいつしらず
明らみわたる木々の葉に
むなしく消らてわがうれひ
やがて光にあとかたもなし

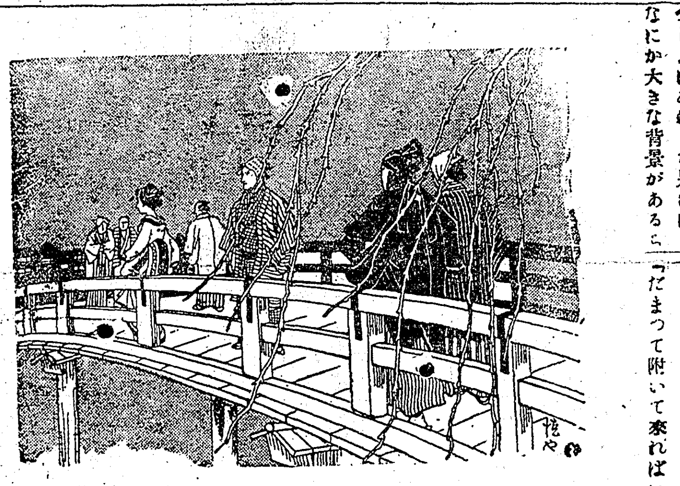
冬夜讀書
珠雲　小野務平

山窓鎖雪玉西東
幾撥爐火夜已中
一穗寒燈好相伴
讀書萬卷道初通

2月28日
△マホメット死す（六三二）△原城落ち天草の亂平ぐ（寛永一五）△琵琶湖疏水通ず（明治三一）△坪內逍遙博士逝去（昭和一〇）

講談 黄金魔刃 (86)
高桑義生作　樋口悦也畫
感傷の曲（一）

『あぶないな』
外へ出ると錦藏は囁いた
寛之助の身の上をいふのである
『ね、』
『しかし、心配はないだらう。かへつて今夜の事などよかつたかも知れないぞ。まさかなあ、お釋迦さまでも氣がつかないところだ。だが、あのおやぢ以上にガッチリしてゐる。お前もあゝいふ人間にねらはれてゐるのだから油斷は出來ないぞ』
『さうです』
『なにか、徒黨の話しをしてゐたが、そんなものがあるのか？』
『知りません』
『さうか、しかしお前といつしよにあれした男には、なにか大きな背景があるらしい』



『知りません』
濃厚な化粧の女が、すれちがつて、寛之助にほゝ笑んだ。つめたい夜氣のなかに、髮油と白粉のにほひが殘つた
あかるい燈影、浮ッ調子な行人の足音、物賣りの聲もなまめかしい
この新堀のひと廓は、旅館商家をまじへた柳暗花明の巷である。安治川口といふ船着を目の前にひかへてゴタゴタしてはゐるが、港情調といへばそれもなつかしく、晝夜絃歌のさんざめきが絶えなかつた
『どうだ、今夜はおもしろい處へ連れて行つてやらうか？』
錦藏はニヤニヤした
『いゝね、たくさんです』
『はゝゝ……何がたくさんなのだ。どんな處が知つてゐるか？』
寛之助はむッつりしてゐた
『まあいつしよに來て見ろ事だ。なにも經驗だ。お前もいゝ若い者だからな。さて……』
錦藏は立ち止つた
『おなじ出かけるなら、いゝ處を案内しようか。新町か、曾根崎か……とにかく行かう』
彼は宿と反對の方角に足をむけた
『何處へ行くのです』
『だまつて附いて來ればいゝのだ』
命令である。寛之助は仕方なしに附いて行く
『不景氣な顔をするな、嫌はれるぞ。はゝゝ……今夜はおもしろい晩だ。お前ともまもなく別れるのだしな
遊びを思ひ立つた男のくせで、錦藏はいつになく浮々してゐる
『それはいつになるのです？』
『明日か、明後日か、近い內だ。そんな事はどうでもいゝ、安心してまかして置くさ。今夜は愉快に遊ぶのだ。すこし寒いな。江戸なら四つ手を飛ばすところだが、大阪の駕籠はのろくてしんきくさい。なあに歩いてもわけはないのが』
京阪ではあまり駕籠は用ひない。駕籠屋があるのは廓だけで、島の內八幡筋は一町のあひだ駕籠屋ばかりだつた。面白いのは江戸の吉原がよひは、四つ手を飛すが、大阪では往きにはけつして駕籠には乘らない。乘るのは歸りときまつたので、それは夜も更けるし醉酊してゐるからといふのだが、これは理窟だ。そして江戸は景氣のいゝのと早いのを自慢にしたが、大阪のは反對に靜かな事と搖れないのを自慢にした。駕籠舁はふだん鉢に水をいれて、かついで一滴もこぼさぬ稽古をしたといふのだから人情風俗の相違、まことに妙味がある
『お前、酒はのむか？』
『いゝえ』
『飲めばのめるだらう。女は？』
急に聲を低めたせゐか、で、聞えなかつたのか、寛之助はだまつてゐた。錦藏はちらりとその横顔を見たが、あへて追窮せず
（こいつはまだ知らないらしい）
橋を渡り、橋を渡り、寛之助が驚くほど橋をわたつた――さうして賑やかな新町の廓に近づいた。寛之助は何を見たのか立ちすくんだ

廣告
前田醫院
院長 前田清美
植田町電話一二四

御宴會

サービス自動車…
團体廿人樣以上にはお迎ひの自動車を差上げます。（北は平町・南は植田町まで）

毎度格別の御贔屓いたゞき難有く御禮申上げます。愈々御宴會季節と成りましたので・御宴會の御下命賜り度、團体樣には德用な下記弊舘御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式

但十人樣以上ノコト　藝妓ハ五人樣毎ニ一人二時間（松印ニ限リ半玉十人樣ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト
◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ
お問合せは　電話（小名濱）103番
通話料は弊館にて負擔いたします。
小瀧鑛泉　瀧乃湯旅館
電話103　割烹部

勉强ノ店（良クテ安イ）
建築美品
床柱、天井板、ベニア板
新入荷品、秋田杉四分板、
山川印優品建具材
內外銘木　建築木材一式　便利瓦、木羽
平町紺屋町
（金）織田材木商店
電話平四六〇番
◎建築木材類ノ御用命ハ誠實勉强ノ當店ニ◎

夜間診療
胃腸性病專門
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電話一〇七番）

吸入用酸素　純度99%
度量衡（モノサシ　マス　ハカリ）
計量器（体温器　寒暖計）
◎秤ノ取・絡ノ垂・糸ノ修復致シマス
關內藥局
電話四〇番

耳鼻咽喉科專門
平町南町一六番地
大和田醫院
電一七〇番
（入院隨意　病室完備）

名湯　鹿の湯　湯之網鑛泉
二百餘年の昔、病める鹿が浴してゐたといふ鑛泉!! 昭和の今もこん〳〵と溢れ湧いて、バスを降りれば半里位の山間に、美しい風光と共に、浴客をお待らして居ります。
效能……胃腸病、神經衰弱、神經痛、リウマチス、子供の蟲氣、婦人病
○平町から日歸り御入浴もラクです。
○關本驛、磯原驛からバスの便あり。
○關南村役場で、御案內致します。
○自炊なさる諸道具ととのつてゐます。
茨城縣多賀郡關南村湯之網
元湯　松屋旅館　親　津さよ
（女中募集）
◎御滯在、團体は割引致します。

國はニッポン。魚は濱魚
日本水産特約
御小賣　平製氷會社
電二二八・三二六番
鯛（銀鯛）　エビ　甘鯛　白魚　甲イカ　ワカサギ　鰹　北寄貝　帆立貝　目拔切身　うに貝燒
ヒノマル東魚
料理店　四丁目
ト印魚問屋
電五二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

しもやけ家傳藥
是マデしもやけハ暖カクナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日一二三回ニ三日ノ御使用デくずれたしもやけモ忘レタ樣ニ完全ニ治リマス
現今ノ塗藥トハ異リ療法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデハアリマセン、又くずれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ增シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中ニ心地良イ療法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子樣方ニモ喜バレ如何ニくずれたしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス是非一度御試シ下サイ。
東京丸井邦寶堂
茨城福島兩縣特約
平町一丁目
伊藤石炭店
電話三四九

兒童の就職斡旋には 父兄との連絡が必要

卒業の春もいよ〳〵迫つて 忙しいこの頃の紹介所

愈々來月末、學校生活にサヨナラして温い兩親の膝下から活社會に飛び出す小勇士の就職斡旋に大童となつて居る平職業紹介所では既報の如く內鄕校からの五十名を筆頭に今月末迄管內連絡小學校からの就職希望兒を取纏めた上これら兒童の希望を基準として本格的求人口の開拓に努める事となり目下これを前にして『紹介所と家庭』の連絡を一層密接ならしめるため四家所長以下所員總出の下に各學校の學藝會を機に開かれてゐる父兄會に臨み種々斡旋上の打合せ、講演を行つて居る、右に關し四家所長は

平町隣接村のものですら未だ紹介所と云ふ機關を知らぬ者さへある程でこれらはともすると惡桂庵の口實にゴマ化されて失敗が多い、父兄會での打合せは兒童の就職斡旋と一つには紹介所機關の普及にもなる、職業と云ふものは今後上級學校に進むものにとつても必要なもので可愛い我子を就職戰線に送らうとする父兄は子供の一生を左右するこの基礎職業の選定に一層留意して欲しい、云々

村の婦人を總動員

「神前に報國を誓ふ」 來地久節永戸愛婦の催し

永戸組合村愛國婦人會では非常時の折柄婦人の自覺と奮起を促すため來月六日地久節に當り村內の婦人を總動員、神社七ヶ所の境內において『婦人報國祭』を擧行し赤誠報國を誓ひ、國運の隆昌を祈願し終つて旗行列を行ふ

も當日の催しに關し來月一日午後一時から藤田女學校に打合せ會を開く事となつた

尙當日は來月二日の愛國婦人會創立三十五周年記念事業として軍隊軍人遺家族慰問、傷痍軍人慰問、慰問袋作製、愛國貯金組合結成も附議される

平町愛婦でも記念事業打合

來月一日藤田校で平町國防婦人會、愛國婦人會、婦人會、女子青年團で

水産會社通常總會 磐城水産株式會社

通常總會は二十九日午前十時から試驗場に開き、決、豫算其他を附議

特別町村義務教育國庫交付金 郡下へ約六萬圓割當

昭和十年度に於ける本縣特別市町村義務教育費國庫交付金は負擔法に依る增加交付金三十萬三千四百五十四圓、補助に依る增加交付金二十二萬九千三百七十三圓合計五十三萬二千八百二十七圓で二十六日縣教育課からそれ〴〵割當交付された

交付を受けたのは三市三百七十五ヶ町村であり前年度に比し六萬九千百七圓の增額を見てゐる郡內の分左の如く內鄕村の四千七百七十二圓を筆頭に總額五萬九千四百七十四圓

（單位圓）

泉	四九一
渡邊	八五八
植田	五五六
山田	七〇八
錦	八二三
勿來	一、八四五
上遠野	二、〇二七
入遠野	二、八二六
川部	七八二
田人外三ケ村組合	三、二九七
平	二、五八〇
飯野	三三七
夏井	二八八
高久	二三四
豊間	一、五五七
江名	二、一七八
鹿島	一、二六〇
小名濱	四、一九三
玉川	二五四
磐崎	八三〇
湯本	四、六七六
內鄕	四、七七二
好間	二、四一九
赤井	二、四二五
永戸	一、六八二
箕輪	一、一七四
澤渡	一、七二五
三阪	二、二七〇
神谷	四一八
草野	五四九
大浦	二、〇八七
四倉	三、〇四〇
大野	一、八二二
平窪	五九三
上下小川	四六六
川前	一、〇三一
計	五九、四七四

受驗難の三中等校へ 出初めた入學志願書

募集人員は前年通り

春立ちて既に半月、各中等校受驗兒童の準備に忙殺されてゐる頃日、在平三中等校では願書受付のお膳立萬全なつて早くも申込みを受け受付係は何れも面喰つた狀態である、即ち磐中では四日前からヒョイ〳〵と飛び込んで今二十七日までに計八通、磐女は同じく十通、平商では緊難をさけ來月一日より受付開始と斷り書を出しても既に十一通と斷然リードして今年も亦最受驗難の前兆の如くであるが、なほ各校の試驗期日も昨年同樣である

△磐中（人員約二五〇）三月十五日締切 同二十七、八日學科 二十九日體格各檢查 三十日合格發表

△磐女（人員約二五〇）三月十五日締切 同二十七、八、九日學科並に體格各檢查 三十日合格發表

△平商（人員約一一〇）三月一日受付開始 同二十四日締切 同二十七、八日學科並に體格各檢查 二十九日合格發表

馬匹去勢日割

郡下の馬匹去勢は來月十四日から左記日割で行ふ事と決定

△十四日—平 豊間 神谷 草野 大浦 四倉 大野 上小川 川前 △十五日—飯野 鹿島 赤井 平窪 夏井 高久 好間 內鄕 玉川 △十六日—渡邊 磐崎 △十七日—植田 勿來 泉 △十八日—山田 錦

可憐な 乙女達にもこの健氣さ 納豆代を國防費へ

感心な平第二校生徒二十名

平第二小學校六年の二組有志二十名は既報の如く『國のために働く軍人さんを慰問しませう』と風寒い朝なさを街頭に進出して納豆賣りをし涙ぐましいこの銃後の支援振りに町民の感激の目を集めてゐたが漸く七圓二十五錢を穫める事が出來たので今二十七日野口チエ子さん外四名が代表して町役場を訪れ

毎日お寒いことでございます、折柄閣下には御丈夫でございますか、私共はお陰樣で一心に學び元氣に運動をいたしております、人民の爲に一筋に眞心を以てお盡し下さる皆々樣の心に私達は感謝の念の餘りその背後に立つて萬分の一にも君の爲と私共の先にたつて國をまもつて下さる軍人の御恩に報いたいといふ考への末二十名の同級生と力を合せ國へ献金する事に決し朝から納豆を賣り歩いて小金なれども遂に國の護りの金を献上することになりました、僅か七圓二十五錢ばかりですが何か國のためになることに使つて下さい

陸軍大臣閣下　一同より

との意味の手紙に添えて一錢銅貨等を取りまぜた該金の寄附を申し出たので町長の青沼さんもこの涙ぐましい心根に少らず感激してゐた、この感心な少女達は

木田秀子 同美智子 丸山照子 鵜沼久仁子 關內滿壽子 堀越秀子 三浦榮子 鵜藤シウ 佐藤眞志子 佐藤マリ 菅本幹子 馬上勝子 友部信子 松本ミサ 鈴木文子 大松崎とデ 中島榮子 和田千代子 根岸經子 宍戸勝子 野口チエ子

成人教育講座 飯野村で

飯野村では今二十八日午後一時より神岡村小學校に黑田縣社會教育主事を招き成人教育講座を開講、特に村內婦人の參會を望んで盛會であつた

好間川堰提工事

平町三萬町民の大動脈たる好間川にかゝる止堰（幅員二十米）は昨年十月の大豪雨によつて缺潰されたので町當局では目下假締切りにより配水してゐるが十一年度新豫算にこれが堰堤本工事費を計上目下同水を分讓してゐる好間、湯本の兩町村にこれが應分の寄附方を交涉してゐるが工事は來る六、七月の渴水期に着工約一ヶ月で竣功せしめる筈である

石城の政戰を顧る

一部同志？の進退と鈴木派の苦闘 （四）

物江縣支部黨務委員長から候補者詮衡に關する支部の態度方針に着て說明が了ると川崎幹事長が颯爽と座長席に就て候補者詮衡方法の議寄を諮る。息づまる緊張裡に大河原常任幹事發言を求め、無記名投票によつて候補者を決定すべしと提案するや言下に三四の贊成あり、場內は此頃より漸く熱を帶び來つて會の成行きに夙くも或種の示唆を投じた

之に對し古川元縣議と共に副部會長たる小野縣議は

——來るべき總選擧を契機として石城政友部會內永年の癌たる新舊の拮抗對立を解消する意味に於て、兩前代議士に肩き退讓を乞ひ、替ゆるに時代に即した新人を以てし、新舊が一致して應援する事にし度い

と述べる

之で行くと佐藤前代議士にとつては議員商賣の足を洗ふに途件れが出來て如何にも結構であるが、解散後に處する傳統であり且つ動かすべからさる支部の鐵則に基き、前代議士優先の常道を邁進せんとする鈴木派の承服する筈がなく、之の時既に甲乙兩論正面衝突の火花は、仄かな黃色い煙を吹いて鬪志滿幅の新舊間に物凄くスパークした

焦れば焦る程容易に發言を許されぬに業を煮やした佐藤前代議士が憤激の形相に燃ゑて議長席間近く躙り寄り、卓を叩き眦を決して投票說を覆すべく『發言を許すのか許さぬのか』と怒號し木村元代議士などが之に和するやら椅子が筋斗打つて倒れるやら大体一流處を網羅した石城政友の豪華陣營は忽然として世にも凄愴なる黑旋風の場面を現出した

此間躍り出た自薦候補星製藥士のピエロ的御愛嬌などに場內は一しきり賑つた上、騷ぎは當日風邪を我慢して會に臨んだ金成上院議員などに窘しなめられて大体靜謐に歸したものの、各自說を固執して涯しがつかず、或は物江黨務委員長の調停案が出たり或は長老連の仲裁協議などあつたが結局投票說に落ち着いた

自說に敗れた佐藤前代議士は『効力無き會合だから退場する』と喚めき乍ら今迄効力無き會合に鬪ひ續けた不用意を自ら暴露し乍ら之亦ゴク然席を蹴つて立つた木村元代議士と共に手兵を合せた十一、二名が踵を接して退場した。長老連の壓迫にも悠揚迫らぬ明鏡止水の座長振りに斷然男を上げたのが川崎幹事長であつた（完）

農事の向上を期し 菊田技農會結成

早くも新事業に着手

菊田方部農業技術員は今後一層農事の向上を圖る目的から此程新たに菊田技農會を結成、會長植田町農會長驚消井、副會長錦村農會長金成欽次兩氏以下の役員を擧げ會員から一ヶ年二圓の會費、關係各町村から一ヶ年五圓の補助金により

研究調查 講演 農事視察 農業上の建議建案

の各項に亘る本格的研究を進める事となつた、今年度事業としては錦村昭和人絹會社で日產五十噸のカリンサンに使用する叺（一日二千俵使用）の繩を納入する計劃で、從來地方で使用する繩は何れも埼玉、靜岡、千葉方面の遠隔地から移入してゐたものだが今後は同會によつてドシ〳〵地元品の聲價をあげやうとするもので、これが製繩研究のため

上遠野村渡邊庄臧 錦村秋山清一

兩氏が來月末頃先進地の視察に同ふ筈岩同地方で昨年八石三斗の種子を共同購入したソラマメも今年からは共同販賣を試みお互の福利增進に努める事となり今後の活動を期待されてゐる

異鄕の風は冷し！

不遇に泣く一家三名 町役場の温情に蘇る

粉雪吹き飛ぶきのふの午後三時頃平町田町地內に親子三人が思案に暮れてゐるのを通行人が發見町役場で事情をきくと、右は山形縣西置賜郡添川村大字杉原生れの鈴木德四郎(四三)妻セキ(四〇)と長女セツ子(四)で德四郎は昨年十月頃迄勿來町の炭礦坑夫として辛じて一家を養つてゐるうち落盤のため左腕を折られて馘首され以來針、マツチの行商等をやつてゐたが最近では一層生活苦に陷り、空腹と寒さのため浮浪の身を悲歎にくれてゐたもので町役場の温情により辛じて旅費を惠まれ喜んで旅立つた

第一校劍道部特別指導

平第一校劍道部では、來月八日の平武德會主催郡下小學兒童劍道大會に備へ練習中であつたが更に必勝を期して此程より橫田、水竹、井上各訓導係りの下に特別指導を開始した

東京から

——鈴木氏の涙ぐましき奮闘遂に榮冠を贏ち得て御同慶の至りに存じ候、只遺憾千萬なるは黨全体の敗北に候

寄り合ふて春寒顏の世帶かな

廿二日 東京にて 順平生

小名漁組改組 あす總會で協議

小名濱町漁業組合總會は二十八日午前九時から開き新法令に基く規約設定等を協議するがこれにより從來の組織を改めて保證責任小名濱漁業共同組合と改稱、組合員は株主制度にして出資一口三十圓、五ヶ年拂込みとなると

裁斷講習盛況裏に終る

來月は羅紗販賣市

磐城洋服技術同盟會主催の裁斷講習會は既報の通り去る二十四日より三日間マルトモホールに於て開催したが出席八十餘名、斯道の大家たる今井講師以下會工務員諸氏指導の下に夫々嶄新な技術を修得し大盛況裡に閉會したが今後も有益なる各種事業を計劃し業界の發展に貢獻する筈で來月六日は東京有力商店の後援により羅紗の販賣市を催すと

區長改選

平町三丁目區長代理は高野虎三郎氏再選、田町區長は石坂詮太郎、仲間町同吉田鎮政兩氏も再選

植田信組總會

植田信用組合總會は二十九日午後一時から開き十一年度事業、決、豫算を附議する

お披露目

品澤から「小菊」出現、明朗な大衆的戀者、御ひゐきを願ふとある

天氣豫報（小名濱測候所觀測）

今晚は北西の風晴、明日は北の風晴後曇

二十八日（小名濱測候所調查）

日出	六、一〇	月出前	九、一四
日入	五、三〇	月入後	
滿潮前	六、四〇	干潮前	一、〇〇
後	八、五〇	後	二、〇〇

新二月二十八日 金曜 庚辰 先勝 六滿 鬼宿

諸判定廳 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 一刻のとう安は後日に大なる穴を生ず勉めよ▲二黑 行動を愼しみ奔逸に流れざる樣注意すべし▲三碧 自ら不安の氣を一掃して勵めば吉日となる▲四綠 心の移り易き日人の勸むる事は考慮を要す▲五黃 先きにのみ勸むは勝はおろそかに成り易き日▲六白 靜々と我が身に福分の近寄り來る吉日とす▲七赤 油斷は吉日となる但し口入事は愼むべし▲八白 家業は繁昌すれども外廻りには注意すべし▲九紫 午前に至つて良き運氣なれど午後は手控せよ

廣告 前田醫院

社員採用 固定給參拾圓外手當支給 二十才以上五十五才迄 希望者は履歷書持參本人來談
公債 社債 現物賣買 擔保貸附
平町鍛冶町十八 日本商事株式會社平支部

父新潟醫學士佐瀨恒儀病氣中の處藥石効なく二十六日午前六時死去仕候間此段謹告仕候
追て二十八日午後二時より三時迄自宅に於て告別式施行仕候
昭和十一年二月二十七日
小名濱町 佐瀨ハヤミ
親戚總代 佐瀨武壽 吉田唯一
友人總代 會田寮 木田磐松

謹啓亡父康五郎儀葬送の際は御多忙中にも拘はらず遠路御會葬被下且亦御鄭重なる御香奠を賜はり御芳志の段幸深謝候拜趨御禮申上可くの處失禮ながら書中を以て御禮申上候 敬具
昭和十一年二月二十七日
男 阿部康雄
親戚總代 阿部卯吉 草刈峻
外親戚一同